

さびはななかまど

Sorbus commixta Hedlund
var. *rufo-ferruginea* Schneid.
(= *S. rufo-ferruginea* Schneid.)

ナナカマドの変種で本州中部山地に生ずる落葉喬木。高さ3-7m許、枝条は紅紫色で、無毛、羽状複葉を互生し、小葉は5-7対あり、線状長橢圓形又は広披針形、先端鋭尖し、基部鈍形、辺縁に鋭鋸歯があり、上面は無毛、下面特に中肋に沿って長い褐色の毛がある。花は7月に開き、白色小形で、枝頭に平頭の複繖房花序をなして多数着く。花は径7mm許、萼筒は倒円錐形で先端は5裂し、裂片は卵状3角形、外面には短い小梗と共に褐色の毛がある。花弁は5個扁円形で平開する。果実は球形で赤熟する。和名は銹葉ナナカマドの意で、葉裏の褐色毛に基くものである。



第 3558 図

のかいどう

Malus spontanea Makino
(= *M. floribunda* Sieb.
var. *spontanea* Makino)

九州霧島山中の溪流の側に自生する灌木状の落葉小喬木で枝極を多く分って繁り、枝は剛く折れ難い。葉は互生し、花枝にあつては梢頭を集って春花と共に開き、幼時は上面に軟毛があり、後無毛、質剛く、倒卵形乃至橢圓形、鋭頭、鈍脚、縁辺に細鋸歯がある。花は白色に僅かに紅を帯び、径2.5cm許、小梗は纖長、長さ2-3cm許、萼は無毛、裂片5個、広卵形内面に白色毛あり、果時に軟毛は脱落する。花弁は5個、円状卵形、黄色雄蕊多数あり、花柱4個、基部は癒合し、下部に白色軟毛がある。果実は略球形で小梗をもって垂下し、径7mm許、頂に萼の脱痕がある。



第 3559 図

たちばなもどき

一名ほそばのときわさんざし
Pyracantha angustifolia Schneid.

支那西南部原産の常緑灌木で、屢々、庭園、垣根等に栽植される。高さ1-2m許、根元から細長く固い灰黒色、有刺の枝を多く散開して繁茂し、円い樹冠を作る。幼条には淡黄色の茸毛を密布し、葉は互生革質、線状長橢圓形で長さ5-6cmに達し、鈍頭で微凸端、略全縁、下面は茸毛密布して灰白色を呈する。初夏に枝端に近い各葉腋から短い房状花序を出して数花乃至10数花を簇開する。小梗は萼の外面と共に灰白色の短毛を布き、花は白色又は淡黄白色、径4-5mm許、萼の裂片は5個、広3角形、花弁また5個、倒卵形、先端は時に凹入する。果実は扁球形、径5-6mm許、先端は凹入し宿存萼片を冠し、橙色となり、冬期までその色を失わない。



まるばいわしもつけ

Spiraea nipponica Makino
f. *rotundifolia* Makino

本州近畿地方以東、向陽の山地に生ずる落葉灌木で、イワシモツケの広葉の1品種。高さ1-2m許、多く枝を分って繁茂し、枝は平滑、円柱状、葉は互生して平滑無毛、下面霜白を呈し、質固く、長さ2.5cmに達し、長橢圓形、鈍頭、基部はやや楔形を呈し、辺縁の上方に往々2-3の鈍歯牙がある。5月頃枝頭に短い總梗を出し、円頭で中軸のやや伸長した繖房花序をなして小白花を密に開く。花は径7mm許、母種よりやや大形、小梗は細長で、萼には3角形の5歯があり、直立開出し、花後反曲せず、花弁5個、円形で雄蕊と長さ等しい。別に1品種ナガバイワシモツケ *forma oblanceolata* Ohwi があり、狭葉品で、葉は倒披針形をなす。



第 3560 図

いぶきしもつけ

Spiraea nervosa Franch. et Sav.

本州の近畿地方以西、四国、九州の向陽の丘陵上に自生する落葉性小灌木。屈曲した小枝を分って叢生し、若枝には短毛密生して黄褐色を呈し、稜角はなく円く、葉を互生する。葉は卵形或は菱状長橢圓形、先は稍尖る鈍頭、縁辺に缺刻状不齊重鋸歯があり、往々浅く3裂し、葉質は硬く、小脈に到るまで上面凹入して下面に隆起し、下面は全般に黄白色の軟毛を平臥して生じ、短い葉柄にも毛がある。春日小枝の頂に總梗を直立して生じ、稍平頭の短繖房花序を展開し、白色小花を密に相接して開く。花は径7mm許、花弁は、5個略円形、萼は有毛、萼裂片5個あり、鋭頭3角形で、花後反曲せず。心皮は無毛であるが、時に内側に散毛がある。



第 3561 図

とらしもつけ

一名ほそばのいぶきしもつけ
Spiraea nervosa Franch. et Sav.
var. *angustifolia* Ohwi

イブキシモツケの一変種で、関西地方以西の丘陵、向陽の地に産し、概形は略母種と同様であるが、果実の心皮は全面に粗毛を有することによって区別される。枝に稜角なく、葉は卵形又は菱状卵形或は菱状長橢圓形、先端は鋭形又は鈍形、不齊重鋸歯縁をなし、葉質はやや硬く、脈は上面凹入し、下面は著しく隆起し、伏軟毛を密生するため、下面は褐淡黄色を呈する。繖房花序には總梗があり、円頭をなして5弁の白色小花を密につける。萼は有毛、萼片は5個3角形、凋花後も反曲せず、花弁は5個略円形、雄蕊多数あって花弁と略同長である。

